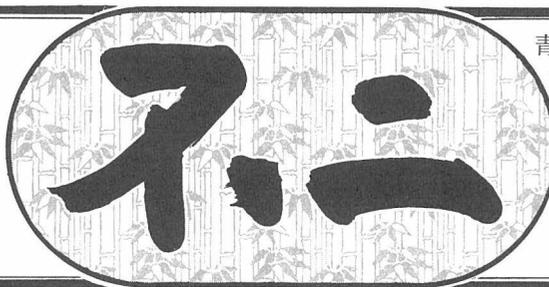


青年僧よ 立ちあがれ、歩め!!

発行所 臨濟宗青年僧の会
発行人 宮田正勝
〒420 静岡市御幸町11の4
TEL 0542-51-1312
〒振替 横浜 2-16960



記事 少年非行と家庭教育
この人 この道 仏師松久朋琳
な 今話題の文化観光税
主 寺興し 尼僧三代
探訪 方広寺

方広寺は、全山が研修道場という体制で、青年教育に殊の外、力を入れておられますが、今日に至る迄の御苦労をお聞かせ下さいませんか。

今度臨黄教化研究会の会場となる大慈閣など、全くのゼロから出発したが、「なせば成る なさねばならぬ なにごとも なさぬは人のなさぬ なりけり」で、毎日「寿」の色紙を書き続けた。行を通して誠を通ず開山大師の「誠の心」でやってやれぬことはない。

こちらでは半僧坊(鎮守)の信仰が盛んです。今日、一般には年頭の初参り等が年々盛んとなっていますが、それが正しい信仰と結びついているかどうか心配な処があります。禅は自覚というこ



とを重んじる宗旨だと思のですが、現世利益を求める風潮と信心について、お話し頂きたいのですが、

人間は目に見えなければ認めたららない。しかし、我々の坐禅でも、無一無一と坐って、老師に駄目だ駄目だと言われ、一年経ち、二年経って自然に自分もわかってくる。丁度、沢庵漬のように漬けた時は塩辛くて食えないのが、やが

て長い間に甘味を帯びておいしくなる。そのように、何とも言えん時間が解決する。信仰する人に何かが必要かなえらる。かなえられるからお参りする。

私共が坐禅をし、坐禅を積み重ねることによって、目に見えないものを会得するということと信ずるということとは、それが何であれ、全く一体である。禅と一体であるということですね。

毒語

坐禅は信じなければなにもならない。一年二年十年とやるうちに妙智力を得る。心が実際のものと交流して行く。人間にはその会得する神・仏がちやんと生きている。それは絵を描いても、字を書いても、目の前に実証できる。やっただけのことはそこに表われてくる。写経にしても一生懸命にやろうという精神・誠の心があれば只単に字を書くのとは違う。

坐禅は勿論ですが、現世利益の信仰でも誠をしていけば、必ず得るものがあるということですか。

誠をしていけば、どんな人でも加護がある。やろうという一念ですね。一念、念力・正念・正念相統というやろうという一念。

教育とかその他艶々した問題でもこの一念があれば……。木を割る時でも気合がなければ割れない。

ご修行時代の話に入りますが、玄峰老師には語り尽くせない位の思い出がありと思えますが、

色々あるが、兎に角大変苦労された方だけに、困って懺悔している者に決して

方広寺派管長

藤森弘禅老師

追い撃ちをかけるようなことをしない人だった。間違いを犯しても決して追っかぶせて苛責するようなことをしなかった。

ある時、大変親交の深かった信者より特別の紙に観音経の写経を頼まれた。目の不自由な老師が漸く書き上げられたが、私が「般若窟 玄峰」の判を逆さに押ししてしまった。そのような時でも「誰でもすることだよ。これから気をつけろよ」と、それも一年以上経った後に言われただけだった。人の辛い事は身をもって知っていた人であった。

管長さんの一番好きな言葉をお聞かせ下さい。

「無」——味わえば味わう程よい。「光」もよい。「風」——風味、薫風、風は四季折々皆違う。風によって春の風

は花を咲かせ、夏は青葉・若葉、秋は実り、冬は寒風となる。

私たち青年僧侶はお互いに未熟で迷うことが多く、仲々前へ進めないのですが、このような青年僧侶にこれだけはということをお話し下さい。

境に動かされぬことです。どんな場合でも動かない。国の変革や思想・世相そして目先の変化に動揺しない。

そして誠を尽くすことです。屋根の鬼瓦は、どんな寒さが来ても、どんな暑さが来ても、春のようなうらかな陽気にもちっともうかれず、でんとしっかり虚空に向って角を突き出している。一生懸命に参じて、鬼瓦のように何の境にも奪われない。この一念が大事である。

世の中が変わっても、どんな時代が来ても、無——般若心経なら 羯諦羯諦波羅羯諦波羅羯諦と、極楽へ行こうが、地獄へ行こうが変わらず、禅宗坊主の真面目を貫いてもらいたい。

